

〔畜産農家の声〕

鶏と共に過ごす3年間
岡山市東区瀬戸町沖 岡山県立瀬戸南高等学校

○はじめに

岡山県立瀬戸南高等学校は、平成23年度に創立86周年を迎えた伝統のある高校です。特色は、水田、果樹園、野菜園、温室等全て合わせると43,560m²にもなる広大な実習ほ場を有していることです。この豊かな自然に囲まれて、生徒の皆さんはのびのびと学んでいます。園芸科学科、生活デザイン科、生物生産科の3学科があり、その中で、生物生産科の「飼育類型」では、牛と鶏を飼育し、実習を通して飼育管理の基礎を学んでいます。

生物生産科の中には「飼育類型」と「栽培類型」があり、1年生の間はこの両方を学び、2年生から希望する専攻に分かれて学びます。

○家畜と実習

黒毛和種繁殖牛11頭、子牛8頭、採卵鶏（ポリスブラウン）1200羽、雛500羽、おかやま地どり100羽を飼育しています。

鶏の実習では、床替え、餌やり、集卵、洗卵、パック詰め等を分担して行います。

卵の生産量は、一日に約70kg、1週間で約500kgになり、年間では約35万個の卵を生産しています。

卵の出荷先は主に2カ所で、1カ所は、契約している一般の方が、定期的に高校まで取りに来られます。もう1カ所は、瀬戸町観音寺にある「玉井青空市場」へ、1週間で約100パックを出荷しています。

生徒の皆さんが愛情込めて育てた鶏が産んだ卵は、青空市場でも人気商品で、毎回購入するリピーターのお客さんもいるとのこと。



＜卵パックの表示＞



＜床替えのため、鶏を一時的に移動中＞



＜元気の良い鶏は、隙あらば脱走を図ろうとします＞

また、食品加工実習の一環として、鶏のくん製やローストチキンを作ります。この実習では、加工の基礎を学ぶとともに、命の尊さを実感します。

こうして3年間、牛と鶏の飼育管理を通して、「生き物を育てるという責任感」を身に付けます。

また、生物生産科飼育類型では、実習の際、1年生に対して必ず2年生又は3年生を付けて、先輩の教育にあたらせています。こうすることで、上級生は、下級生に教える中で再度学び、下級生は、「ああいう先輩になりたい」と身近な目標を見つけて努力し、お互いの成長につながるということです。



<黒毛和種繁殖牛>

○飼育研究

昨年度からの継続研究として、「飼料米をおかやま地どりへ給与した場合の、鶏の成長や肉質への影響」について、2年生19人が取り組んでいます。

○ふれあい動物園

生物生産科飼育類型では、この他にもヤギ、ヒツジ、ウサギ、ミニブタ、アイガモを飼育しています。

これらの動物を用いて、地元の地域親子クラブ等を対象に、動物を身近に感じてもらうためのふれあい動物園を開催しています。春と秋の間、授業時間内に週1回、年間では約15回になります。

生徒の皆さんにとっては、子供達に動物の接し方についてやさしく教えたり、保護者からの質問に答えることで、心の成長につながっているようです。



<ふれあい動物園のアイドル ヒツジ
普段は斜面の草刈り隊として活躍中>

○今後は・・・

生徒の皆さんは、本当に真面目に、愛情を持って鶏や牛の世話をされていました。今後のますますのご活躍に期待しています。

(備前県民局 畜産班)



<ふれあい動物広場>